

リカレント教育講座：アーク溶接資格合格へのポイント講習

報告者	高橋 一英	報告日時	令和5年3月13日(月)
実施場所	実習工場	実施日時	令和5年3月9日(木)~10日(金)(2日間)
参加職員数	3名(高橋(一), 阿部, 木村)		

・報告

令和3年度に採択された高度化推進事業の交付を受けて、リカレント教育講習を継続開催しています。専門的スキルを習得して、現在の業務向上、求職のための強みとしてもらうことを目的としており、各種資格やスキル習得のための講習です。

講習内容は多岐に渡り、その中でも実習工場では「アーク溶接資格合格へのポイント講習」を実施しました。アーク溶接の受験目標は、手溶接技能者資格_基本級 A-2Fです。この資格はアーク溶接資格の中でも最も基本的な資格です。

講習内容は、被覆アーク溶接の概要編、被覆アーク溶接実技編、溶接技能評価試験編の3部構成で、令和5年3月9日~10日(9:00~15:00)途中休憩をはさみながら2日間に渡り実技を中心に講習を行いました。

①初日の1時間はアーク溶接の概要について座学を行いました。次の実技では、アークの出し方、タック(仮付け)溶接、V型開先試験片5層溶接の練習を行いました。

②2日目の午前中は、本溶接の練習を中心に、後半はタック(仮付け)溶接の正確性を求めて練習してもらいました。

③午後から、デジタルバッジ該当の修了試験を行っています。内容は1.溶接ビードの外観評価試験、2.裏当て金の溶け込み確認(試験体の裏当て金をフライスで切除)、3.タック(仮付け)溶接技能到達度。何れの項目もアーク溶接技能検定の合格レベル圏内にあると判断、デジタルバッジ認定として修了しています。

なお、曲げ試験については、中板材厚9mm 該当の曲げ試験治具が準備できないため行っていません。上記の2.裏当て金の溶け込み確認を代替結果としています。

今回参加された受講者の方は、複数回のアーク溶接にチャレンジしてもらいましたが、どれも外観評価はデジタルバッジ交付条件に達しており、最後の余盛ビードが合否の分かれ道と理解していただけたと思います(図1)。

最後に、受講者の方には大変お疲れ様でした。講師一同“一発合格”を祈念いたしております。以上、リカレント講習の報告とさせていただきます。

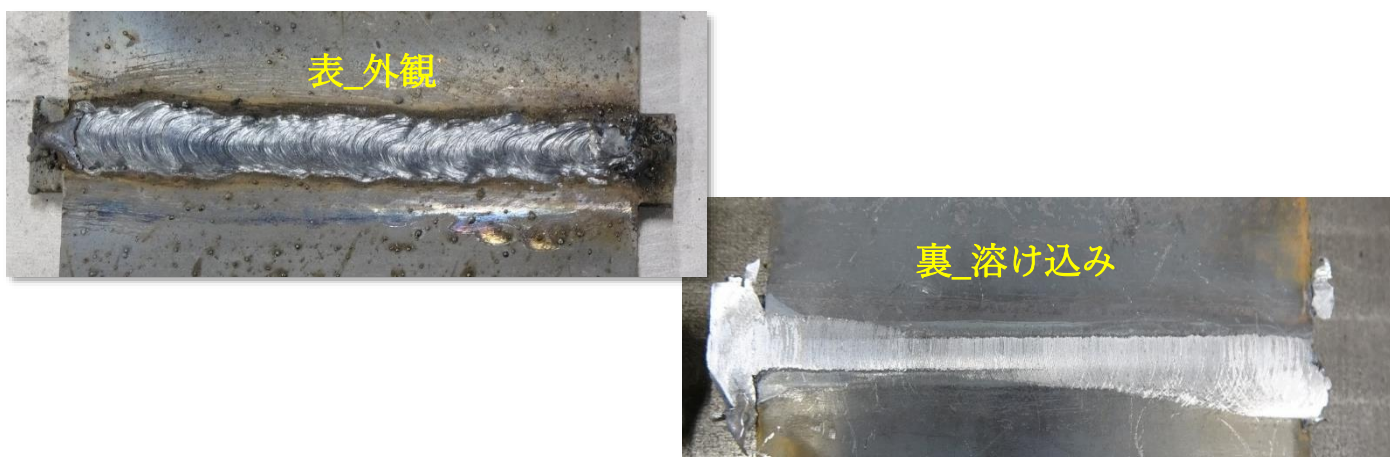


図1 デジタルバッジ修了試験結果